

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの自己評価

観点 4 - 1 - 1 : 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、公表、周知されているか。

【観点到係る状況】

本学では基本理念及び教育研究の特色を、ホームページ、大学概要、大学案内等に掲載し、公表している。本学の基本理念及び目的に沿って、平成 16 年度に入学者選抜方法研究委員会、教授会の議(資料 4-1-1-1)を経て、全学のアドミッション・ポリシーを定め、さらに、課程ごと(修士課程の各専攻も含める形)の、より具体的なアドミッション・ポリシーを定めている。これらは、ホームページに掲載し学内外に公表するとともに、大学案内及び学生募集要項の印刷物を高等専門学校、高校、本学志願者、文部科学省、本学海外事務所、本学教員、事務局各課等に配付し周知している(資料 1-2-2-1, 1-2-2-2, 4-1-1-2)。

さらに、毎年実施しているオープンキャンパス、高等専門学校訪問、高校訪問、高校関係者との懇談会、留学生フェア・進学説明会等において、アドミッション・ポリシー、基本理念及び教育研究の特色について説明し、学外関係者への周知(資料 4-1-1-3, 4-1-1-4, 4-1-1-5, 4-1-1-6, 4-1-1-7)を図っている。

なお、ホームページに掲載した本学アドミッション・ポリシーに対するアクセス件数を(資料 1-2-2-3)に示す。

資料 4-1-1-1	* アドミッション・ポリシーについて(代議員会議事要録抜粋)
資料 4-1-1-2	* 学生募集要項配付先一覧
資料 4-1-1-3	* オープンキャンパス・入試プログラム(参考資料 4-1「オープンキャンパスレポート」)
資料 4-1-1-4	* 高専訪問状況(平成 9 年度以降)
資料 4-1-1-5	* 地元高校訪問状況(平成 9 年度以降)
資料 4-1-1-6	* 高専・高校訪問マニュアル(参考資料 4-2「高専・高校訪問マニュアル」P1, P4 抜粋)
資料 4-1-1-7	* 高校との懇談会の実施状況

【分析結果とその根拠理由】

本学の理念に沿った、アドミッション・ポリシーは教授会等の議を経て明確に定められ、ホームページに掲載するとともに、大学案内及び学生募集要項の配付、関係機関への訪問等により学内外に公表、周知している。特に高等専門学校については、毎年全校を訪問し、周知を図っている。

観点 4 - 2 - 1 : アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。

【観点到係る状況】

本学では、目的を達成するため、アドミッション・ポリシーに沿った学生を求め、学部、大学院において多様な選抜(資料 4-2-1-1, 4-2-1-2)を実施し、学力、思考能力、潜在能力、独創性、人間性、本学の目的に対する意欲などについて判定を行っている。

学部1年次は、定員の半数について推薦選抜を行い、大学入試センター試験を免除し、推薦書、調査書、小論文及び面接により、残りの定員については一般選抜を行い、大学入試センター試験を課し、平成17年度入試までの前期日程では、学力検査(数学、理科)、調査書及び成績証明書等により、後期日程では、面接、調査書及び成績証明書等により総合判定している。

大学院修士課程では、学内選抜においては学業成績及び学力検査により、一般選抜においては学力検査(英語、基礎・専門科目)、面接及び成績証明書により、高等専門学校専攻科修了者推薦選抜においては学力検査(英語)、口述試験(専門・専門科目)、面接、成績証明書及び推薦書により総合判定している。

大学院博士後期課程では、学内選抜においては学業成績、面接と修士論文により、一般選抜においては学力検査(外国語及び口述試験)、成績証明書及び提出論文により総合判定している。なお、本学では博士後期課程の入学の時期を学期の始め(4月、8月、12月)としており、それに対応した時期に選抜試験を実施している。

資料4-2-1-1 *平成17年度に実施する入学者選抜について

資料4-2-1-2 *入学者選抜の概要(参考資料1-9「大学案内2006」P42～P45 抜粋)

【分析結果とその根拠理由】

推薦選抜においては、推薦書、調査書若しくは成績証明書を提出させ、小論文、面接及び口述試験等を行い、一般選抜では、基礎学力、語学力等の学力検査と面接等を行い、学内選抜では学業成績、学力検査と面接等を行い、学力、思考能力、潜在能力、独創性、人間性、本学の目的に対する意欲などを判定している。

これらのことから、本学の目的、アドミSSION・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法を採用し、実質的に機能していると判断する。

観点4-2-2: アドミSSION・ポリシーにおいて、留学生、社会人、編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

【観点到係る状況】

観点4-2-1に示したとおり、本学では、目的を達成するため、アドミSSION・ポリシーに沿った学生を求め、学部、大学院において多様な選抜を実施している(資料4-2-1-1、4-2-1-2)。

特に、編入学は本学の特色であり、高等専門学校卒業生等を主たる定員として3年次に受入れている。選抜方法として、定員の半数以上について推薦選抜を行い、高等専門学校卒業見込者を出願資格者とし推薦書及び調査書等により、残りの定員について学力選抜と社会人特別選抜を行い、学力選抜では学力検査(国語、英語、応用数学、専門科目)及び調査書により総合判定している。

外国人留学生に対しては、英語によるアドミSSION・ポリシーを募集要項(資料1-2-2-1)に記載し、学部1年次(私費)、大学院修士課程、大学院博士後期課程のそれぞれに留学生特別選抜を設け、修士課程ではさらに英語特別コースを設けている。学部1年次では大学入試センター試験を免除し、成績証明書、日本留学試験及びTOEIC又はTOEFLにより、大学院修士課程では学力検査(英語、日本語、基礎・専門科目)、面接、成績証明書、推薦書により、博士後期課程では学力検査(外国語試験及び口述試験)、成績証明書及び提出論文により総合判定している。

社会人に対しては、学部3年次、大学院修士課程、大学院博士後期課程のそれぞれで社会人特別選抜を行う。

学部3年次では学力検査(国語、英語、応用数学)、口述試験、面接及び調査書。大学院修士課程では学力検査(英語)、口述試験、面接、成績証明書及び推薦書。博士後期課程では学力検査(外国語試験及び口述試験)、成績証明

書，推薦書，提出論文及び研究業績により総合判定している。

その他，帰国子女に対しては，学部 1 年次に帰国子女特別選抜を設け，大学入試センター試験を免除し，推薦書，調査書，小論文及び面接により総合判定している。

【分析結果とその根拠理由】

編入学生，留学生，社会人の受入れに対しても，観点 4-2-1 と同様に，本学の目的，アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法を採用し，実質的に機能していると判断する。

観点 4 - 2 - 3： 実際の入学者選抜が適切な実施体制により，公正に実施されているか。

【観点に係る状況】

入学者選抜の実施体制は，入学試験委員会が掌握し，入学者選抜方法研究委員会における改善等の提案を考慮した上で，入学者選抜試験の実施計画，募集要項の作成を行う。試験問題の作成は入学試験委員会の下に置かれた入学者選抜試験問題専門委員会が担当し，入学試験を実施する際には入学者選抜試験実施本部が置かれる。入学試験により選定された合格候補者について，各課程，専攻での選考会議，教授会の議を経て合否判定が行われる（資料 4-2-3-1～4-2-3-6）。

入学試験問題は，各試験科目作成を担当するに十分な教育研究経験を有する教員により作成され，公正を保つため，入学試験問題作成に関わる情報を非公開としている。試験にあたっては，入学試験問題作成委員会委員長及び問題作成責任者も試験実施本部員（資料 4-2-3-5）に加わり，入学者選抜を遺漏なく実施するよう配慮している。また，面接，口述試験においては，試験教員を複数名で構成することにより，公正な合否判定が行えるよう配慮している。

- 資料 4-2-3-1 * 入学者選抜に係る主な流れ
- 資料 4-2-3-2 * 入学試験委員会規程
- 資料 4-2-3-3 * 入学者選抜方法研究委員会規程
- 資料 4-2-3-4 * 平成 17 年度入学試験関係会議及び委員会委員等一覧
- 資料 4-2-3-5 * 入学者選抜試験実施内規
- 資料 4-2-3-6 * 教授会規則等抜粋

【分析結果とその根拠理由】

入学者選抜に係る実施計画等の作成，試験問題の作成，試験の実施，試験の採点及び合格者の決定までの実施体制は，入学試験委員会を中心に構築しており，組織間の連携も図られ，意思決定のプロセス，責任も明確であり，かつ，公正である。これらのことから，入学者選抜が適切な実施体制により，公正に実施されていると判断する。

観点 4 - 2 - 4： アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【観点に係る状況】

入学者選抜方法研究委員会を中心に、入学者選抜方法、入学者選抜方法の改善に関連する事項の調査研究、入学者選抜に関する広報、入学試験情報の公開に関することなどを審議（資料 4-2-3-3）し、アドミッション・ポリシーの策定、学部 1 年次一般選抜の募集方法の改定（一括募集、推薦入学の出願資格の拡大、面接方法、後期日程の廃止等）などを行った。入学試験の結果、入学者に対するアンケート、入学後の学業成績追跡調査や高校・高専教員との意見交換等を踏まえて、改善方策等について検討している。その状況は（資料 4-2-4-1）のとおりである。また、入学者選抜方法の改善に資するため、調査研究した結果を「入学者選抜方法研究委員会報告書」として取りまとめている（参考資料 4-3）。

資料 4-2-4-1 * 入学者選抜方法研究委員会における検証・改善状況一覧

参考資料 4-3 * 入学者選抜方法研究委員会報告書

【分析結果とその根拠理由】

入学者選抜方法研究委員会は、入学試験の結果、入学後の学業成績追跡調査、高校・高等専門学校教員との意見交換等を踏まえて、入学者選抜について検証、調査研究し、改善策を講じている。また、調査研究した結果を「入学者選抜方法研究委員会報告書」として取りまとめ、入学者選抜方法の改善に役立てている。

以上のことから、本学の基本理念、目的に沿った入学者選抜の検証及び改善の取組が行われ、その結果を入学者選抜の改善に役立てていると判断する。

観点 4 - 3 - 1： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点に係る状況】

この 5 年間の平均入学定員超過率は、学部 1 年次入学の場合 1.40、学部 3 年次編入学の場合 1.15、大学院修士課程入学の場合 0.99、大学院博士後期課程入学の場合 1.21（資料 4-3-1-1）となっている。

学部 1 年次定員超過率がやや大きいのが、3 年次編入学定員が 300 人であるのに対して、1 年次入学定員が 80 人と少ないこともあり、全学的な定員超過率は 1.20 に過ぎず、過大な定員超過を招いていない。

入学者数の改善に関する取組については、役員及び学長補佐等からなる学長補佐等懇談会においても現状を把握（資料 4-3-1-2）し、定員不足対策など入学者選抜方法研究委員会等で改善策を検討している。

資料 4-3-1-1 * 入学者選抜の状況

資料 4-3-1-2 * 3 年次編入学試験及び 1 年次入学試験の対応について（学長補佐等懇談会議事メモ抜粋）

【分析結果とその根拠理由】

過去 5 年間の入学状況は、学部については、定員の 1.20 倍、大学院修士課程については、0.99 倍、博士後期課程については 1.21 倍の学生を受け入れており、実入学者数が入学定員を大幅に超える、又は下回っておらず、入学定員と実入学者の関係は適正である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

全学的なアドミッション・ポリシーに加えて、課程（8課程）ごとにアドミッション・ポリシーを定め、ホームページ、大学案内、学生募集要項に掲載し公表するとともに、多様な入試制度を採用し、多様な学習歴を持った学生を幅広く受け入れている点は、本学の特色であり、優れた点である。

本学の基本理念、目的（実践的、創造的かつ指導的技術者の育成）を達成するため、大学院修士課程までの一貫教育の方針に則り、学内選抜制度を設け、学部学生の80%以上が進学している点は、本学の特色であり、優れた点である。

【改善を要する点】

学部、大学院の入学者数については、今後、厳しい状況が見込まれることから、有効な対策を検討する必要がある。

(3) 基準4の自己評価の概要

本学は、基本理念、教育目的に沿って、全学共通のアドミッション・ポリシーを明確に定めるとともに、これに基づき、課程ごとに、より具体的なアドミッション・ポリシーを明確に定めている。これらは、ホームページに掲載するとともに、大学案内及び学生募集要項の配付、関係機関への訪問等により学内外に公表、周知している。特に高等専門学校については、毎年ほぼ全校訪問し、説明し、周知を図っている。

学生の受入れについては、本学の目的を達成するため、普通高校並びに工業高校等からの入学、高専からの編入学、留学生、社会人入学など、学部・大学院にわたり多様な学習歴に対応した入学試験を実施し、学力検査や口述試験、調査書または成績証明書などにより学力を判定するとともに、面接や調査書、推薦書などによりアドミッション・ポリシーに沿って適性を判定している。

入学者選抜の実施については、実施計画等の作成、試験問題の作成、試験の実施、試験の採点及び合格者の決定まで、入学試験委員会を中心に体制を構築しており、意思決定のプロセス、責任も明確であり、適切な体制により、公正に実施している。

入学者選抜の検証及び改善については、入学者選抜方法研究委員会が、入学試験の結果、入学後の学業成績追跡調査、高校教諭・高専教員との意見交換等を踏まえて行っている。また、これらの結果を「入学者選抜方法研究委員会報告書」として取りまとめるなど、入学者選抜方法の改善に役立てている。

実際の入学者の状況については、過去5年間において、学部については、定員の1.20倍、大学院修士課程については、0.99倍、博士後期課程については、1.21倍の学生を受け入れており、入学定員を大幅に超える、又は下回る状況にはなっておらず、入学定員と実入学者数の関係は適正である。